

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
61

2018 霜月・師走



特集

生きる力を育む道院 Part 3

「人が集う道院づくり」

生きる力を育む道院 Part 3 「人が集う道院づくり」

札幌市の北に位置する人口5万8000人の都市、石狩市。この石狩市で地域に根ざした金剛禅運動を展開するのが石狩緑苑道院・伊藤謙一（いとうけんいち）道院長（59）である。2003年10月に設立した当初は家族を含む6人だったが、今では緑苑台エリアにおける「人間教育の拠点」として、80人の拳士たちが在籍する道院にまで発展している。その元気の秘訣を求め、伊藤道院長に話を伺った。



伊藤謙一 道院長

遅れて来ても 鎮魂行ができるように

——本日はよろしくお願いたします。
伊藤道院長（以下、伊藤） こちらこそよろしくお願いたします。

——広い道場ですね。

伊藤 ありがとうございます。初めは40畳の道場だけだったのですが、拳士数が徐々に増えて場所が狭くなったので、2008年11月に隣にもう一つ、50畳の道場を建てたんです。今の人数で、何とか収まっています。

——それはすごいです。道院長室に

も祭壇があるんですね。

伊藤 ええ。以前は、開始に遅れて来る拳士が鎮魂行をやらないまま、修練に参加していません。でも、このままではいけないと思いついて、それで、道院長室にもう一つ祭壇を作って、そこで落ち着いて鎮魂行を行えるようにしたんです。

——達磨大師に向き合って鎮魂行を行う。すばらしい環境です。

伊藤 実はこれ、私の考案ではないんです。大阪平野道院の川添浩史道院長のやり方をフェイスブックで見つめて、「先生、真似していい？」って聞いて、頂いたものなんです（笑）。

——え、そうなんですか？ フェイスブックでそんなつながりがあったんですね。

伊藤 本山に近い先生方は、本山のやり方を吸収しやすいのでしょ、私みたいに北海道にいる人間は、フェイスブックのような道院長同士のつながりで、いい情報を交換し合

い、いいなと思ったやり方を参考にさせていただいているんです。



ちゃんとした基盤を持ちたい

——伊藤道院長は、どのような経緯で道院長になられたのですか？

伊藤 私が少林寺拳法に初めて出会ったのは、東海大学の学生の時でした。ですが、父が入院して大学を続けられなくなり、退学。その後アルバイトをしながら専門学校に通い、卒業後は札幌市に奉職。もう少林寺拳法を再開することはないと

思っていたのですが、札幌市役所支

部（現在廃止）の守屋守人支部長との

ご縁を頂き、「一から出直しなさい」と。

そこからですね、本格的に少林寺拳法を学び始めたのは。また、武

専にも入り、やがて「少林寺拳法の教

えは地域で実践してこそ本物だ」と思

うようになっていったんです。その

ためには体育館などの公共施設では

なく、ちゃんと地域の生活者となっ

て活動の基盤を持つことが必要だと。

そして、地域に根づくためには、自

分に何か問題があってもためですし、

拳士に何かあってもため、地元から

の評判が悪くなってもため。これは、

公共施設ではない、地域生活者なら

ではの認識だと思っんですね。

——そこに腰を据えるわけですから

ね。

伊藤 ええ。そんな折、北海道武専

で石狩花川道院の鈴木邦彦道院長（故

人）にお会いしたんです。鈴木道院長

は当時170人くらいの拳士を指導

していたのですが、専有道場を建てられ、ものすごくしつかりとしたご指導をされていたんです。そこで、私もいつでも道院を出せるよう自宅の1階に道場部分を作って引っ越しして、半ば強引に「町道院を開きたいので勉強させてください!」と、石狩花川道院に転籍させていただきました。でも、居心地がよくて、ついに鈴木道院長から、「君は道院を出すんじゃないのかね」と……。

——言われてしまったんですね。

伊藤 はい。ただ、「厳しいことを言ううようだけれど、うちからは拳士はやれないよ。自分の力で道院を育ててみなさい」とも言われました。こうして、石狩緑苑道院は、私、妻、長男、次男を含めた6人でスタートしたんです。

——え? 奥さまも拳士なのですか?



伊藤 そうなんです。実は鈴木道院長の奥さまも拳士だったんですが、道院長夫人が私の妻(明子夫人)にこう言ったんです。「拳士じゃなかつ

たら保護者からは道院長の奥さん、としか思われないから、あなたも少林寺拳法を始めなさい」と。妻も「エッ」って戸惑ったようですが、とうとう入門することに。今では影の道院長として、私をサポートしてくれています(笑)。妻も献身的に拳士の指導に当たってくれているので、保護者からは高い信頼を頂いていると思います。

——背中を押すひと言ってあるのですね。それによって、そのあとの展開が変わるんですから、すごいことです。

まずは「動ける身体づくり」を

伊藤 ここ緑苑台にある小学校からは、とても多くの児童さんが道院に通ってきてくれるんです。他の競技スポーツでは練習についていけないから、ということでも少林寺拳法にやってくる子もいます。その子にとっては少林寺拳法が一つの望みなのです。だからこそ、そういう子ほど絶対にやめさせてはいけな、と思つて取り組んでいます。

——何か工夫されていることがあれば、お願いします。

伊藤 副道院長が鍼灸整骨院をしており、大人も含めたトレーニングの専門家なので、^{からだ}身体づくりの指導を任せています。まずは技よりも動ける身体をつくっていくことに重点をおいています。とはいっても、厳しくハードな体力トレーニングなんかではありません。楽しく、です。競技スポーツであろうと、「行」であろうと、身体を動かすことには変わりはありませんから、科学的な運動理論に基づいて、しかもゲーム感覚で楽しめるメニューを豊富に行うようにしています。

——子どもの場合は、脳と運動神経と手足との連動やバランス、反応やリズムといった機能が発達途上にありますね。実際に修練の様子を見学しましたが、皆さん、心から楽しんでるから笑顔がこぼれていました。

伊藤 「動ける身体づくり」によって身体がつくられていけば、専門的な動き(拳技)はちゃんとできるようなってきます。逆に、拳技を優先して身体づくりを疎かにしたら、下地がないものですから、結局上達も遅いんです。

——石狩緑苑の拳士は、大会でもよく入賞されていますが、「動ける身体づくり」という下地があるからこそ、なのです。

伊藤 決して大会重視なのではありません。修練の成果を図るものとし

て大会を活用し、一所懸命取り組んだ拳士は、結果として優秀な成績を収めたりします。でも、大切なことは、道院での日々の修練です。まず道院で行うのは、心の教育と、一生使う身体をつくっていくことだと思つています。



地域に根ざした人間教育を

伊藤 よく、「地域に根ざすって何?」って考えるんです。当然、価値あるものを道院でやらないと根ざすことはできません。私の道院の^{かいわい}界隈は、比較的若いお父さんが多く、またお母さんもパートに行っているご家庭が多いんです。そうであれば、「あいさ

つをする「感謝する」「頑張る」「仲間と協力する」といった、人間として身につけておくべき基礎的な素養が、家庭の中だけでは十分になされにくいのではないかと思うんです。そういうのが、ここ(道院)に求められているのかもしれないと。親御さんたちが求めていることに応えていくことが、地域に根ざす活動なのだと思うんですね。

——「親業の支援」ですね。

伊藤 家庭環境・家庭での教育が、人格形成・人間教育の根本ですが、夫婦共働きであったり、核家族の家庭ではなかなか難しいのが実情です。だからこそ、多くの人が集うこのよな道院で、人間としての基礎的な素養を身につけ、実社会へ送り出していくことが、「地域に根ざす道院」の第一義なのだと思います。

——6人からスタートして、少林寺拳法を通じた人間教育によって地域からの信頼を得ていった。それが口コミとなって、人が人を呼び、現在これだけ多くの拳士が集うようになった。秘訣というか、王道ですね。ちなみに、拳士の保護者さんとは、何か交流する機会はあるのでしょうか？

伊藤 うちの道院では、大小さまざまな行事をよくやります。宗道臣

デー活動を終えたあとは、必ず「阿羅漢会」を催します。食事を作ってくれたお父さんお母さんに、子どもたちは感謝の合掌礼をする。みんな、礼儀正しい。その子どもたちの姿を見て、お父さん、お母さんは感動されるんです。

——感謝の気持ちを礼に表すって、大切なことですよ。



伊藤 ええ。ほかに、時々親子練習日を設けることがあります。子どもたちが、お父さんお母さんに天地拳を教えるんです。子どもたちが一所懸命教える。親御さんは手足をギクシャクさせながらも、「うちの子はこんなに難しいことをやっているんだ」と思っ、一所懸命覚えようとする。最後に相対で発表する。そのあと全員で「飯器、汁器は手に持って……」の食事の作法を唱和して軽食をとったりします。

——道院が「大きな家族」になっていきますね。

伊藤 そうですね。あと、10月7日には地域開放の「達磨祭」を開催する予定です。地域の人に、少しでも少林寺拳法のよさを知っていただきたい。行事を通じて、私たちが大切にしている「人と人とのつながり」を感じていただきたい。そう願って企画しています。

——いいですね。ぜひ成功できますように！（編集部注：取材後、達磨祭は、成功裏に終了したようです）

伊藤 私がこのような性格なのは、きつと亡くなった父親譲りなんだと思います。父は生前、町内会の役員をやっていた、人の世話をするのが好きだったんですね。何をやるにしても自他共楽の精神で。

人はともすると自他共楽よりも、損か得かのほうに判断基準を持ってしまふものです。道院での日々の修練や行事を通じて、人の喜びを自分の喜びにできる価値観、自他共楽の精神を持った人間を育てていきたいと思っます。

——伊藤道院長ご自身が、人づくりの道を楽しんでおられますね。それが道院長の醍醐味なんですね。本日は、ありがとうございました。

石狩緑苑道院の拳士たちへインタビュー



佐藤瑚桜さん

「少林寺拳法を始める前は友達とよくけんかをしたけど、いまでは相手に優しく接することができるようになった」と話す佐藤さん。中学生拳士の主将を務める。



城澤大河さん

「この道院の好きなところは、世代を超えて関わられる人がたくさんいるということ」と話す城澤さん。「近所の方にもしっかりとあいさつができるようになった」とも。



伊藤修平さん

「その人が理解できる言葉を伝える。言葉で伝えることを大事にしたい。そして、自分の思いで引っ張るリーダーよりも、人のやりたいことを後からサポートする、寄り添えるリーダーを目指したい」と語る修平さん。伊藤道院長の長男で、石狩緑苑道院副道院長のほか、少林寺拳法石狩緑苑台スポーツ少年団の部長も務める。



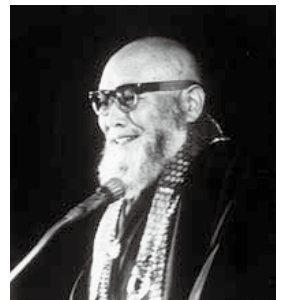
伊藤浩輔さん

「道院は小さな社会。自分とは異なる考えを持っているからこそ、学べることもある。人の考えを受け入れられる人間になれるよう導いていきたい」と語る浩輔さん。伊藤道院長の次男で、石狩緑苑道院助教のほか、北海道教育大学札幌校少林寺拳法部の部長も務める。



開祖語録 ダイジェスト

1979年2月
本部役員講習会



※この開祖語録中の「少林寺」は、金剛禅総本山少林寺または少林寺拳法を意味しています。

交互に技を掛け合いながら共に上達を図るといふ「組手主体」の修行のあり方は、教育の理想の姿でもあるが、ここを理解できない、理解したくない人が、やはり出てきています。

進歩する喜びを、共に心からうれいと思える、間違いを共に正せる関係の大切さ、すばらしさを、今一度捉え直してみてほしい。

自分だけが一流になり、自分だけが強く、自分だけが勝ちたい、そうした人間をよしとするスポーツや武道の世界では得られない大事なものが少林寺にはあることを、もう一度思い起こしてみることが、そして、きょう私が挙げた内容からちょっとでも外れていることがあるなら、大いに自己反省すべきです。

あるいは、「先生、あなたにはこういう悪い癖がある。こう直したらどうだろ

自分の信念と秤を持つ

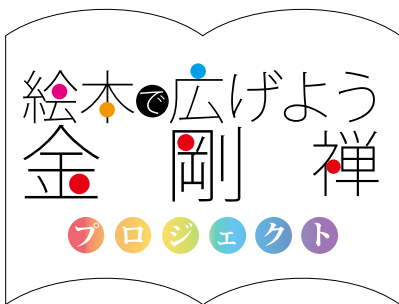
う」といった具合に、仲間同士、注意し合ったらいい。それでむくれたり、ふくれたりしたら、「おかしいぞ」と言ってみんなで直させる。

「俺がごねたら皆が言うこと聞く」なんて思っているようなのは、早急に反省させなさい。

で、是は是、非は非であるけれど、自分の秤はかりで判断し、きっちり言い切るには、かなりの勇氣も勉強も必要です。

「いかん」ことは「いかん」と、どこに対しても、誰の前でも言える生き方をし続けるには、今も言ったとおり、みずからの秤がなければどうにもなりません。

コロコロひっくり返らず、ヨロヨロせず、自分の信念と秤を持つて後輩を指導していけるよう、釈迦しやくかに説法なんて思わずに、もう一度われわれの原点に立ち戻り、新たな姿勢でスタートしてもらいたい。



東京西品川道院
磯野慈武

してもいいから思いっきり楽しむ……。すると、自然とリラックスして声にも伸びがでてきました。楽しむことで相手の様子を見る余裕が生まれたからか、気づくと、目の前には子どもたちのたくさんの笑顔も見えました。楽しむことで自然体となり、自分本来の力が発揮できる。これは、拳技のみならず日常生活にも生かせることです。これからも、修行の一環として絵本の読み聞かせを楽しんでいきます。

読み聞かせのコツは楽しむこと

絵本の読み聞かせと金剛禅の修行に何の関連性があるのか、初めは正直よく分かりませんでした。ただ、道院長の海沼先生が絵本を開くと、子どもたちがとても楽しそうに聴き入り、先生もまたそれ以上に楽しそうにしている姿がとても印象的で、つい「私にもやらせてください！」と(笑)。ところが、実際にやってみると思ったより難しく、たくさん子どもたちの前で緊張して声は上ずり、絵本を持つ手にも力が入ってしまいます。そこでふと気づいたのは、先生のように「楽しむこと」です。失敗

今回読んだ絵本

◎おおきな木

作・挿絵：シェル・シルヴァスタイン
訳：村上春樹
出版社：あすなろ書房



幼い男の子が成長し、老人になるまで、温かく見守り続ける1本の木。木は自分のすべてを彼に与えてしまいます。それでも木は幸せでした。無償の愛が心にしみる村上春樹訳の世界的名作絵本。

愛と慈悲

『愛するものから愛いが生じ、愛するものから恐れが生じる。愛するものを離れたならば、愛いは存在しない。どうして恐れることがあろうか』(「真理のことば」(ダンマパダ)第十六章 愛するもの212)

仏教では「愛は渴愛であり、渴愛とはのどがかわいて水を求めるように、激しく執着すること」と捉え、欲望の一種であり、煩惱として捉えているために渴愛から離れることを理想とした。

たしかに愛の典型的なものは一般的には男女の愛情のことと考えられているのではないだろうか。しかし愛はそのまま慈悲ではないだろうか。しかし愛はそのまま慈悲ではないだろうか。自分だけのものにしたという独占欲や支配欲に結びつきやすい側面がある。

愛は常に憎しみに転じる可能性をもつ。しかし慈悲は愛憎を超えた絶対の愛である。人を憎むということがない。

『原始仏教においては、まず人間が利己的なものであるという現実の認識から出発するのである。或るときパセーナデイ王は、マツリカー妃とともに宮殿の上におられたことがある。その時の対話の中で「マツリカーよ。お前にとつて自分よりもっと愛しいものが何かあるかね」。王は或

る答えを予期していたのであろう。甘い答えを。ところが妃ははぐらかしてしまった。「大王さまよ。わたしにとつては自分よりもっと愛しいものは何もありません」。最愛の人々の間でさえもこうなのである。

妃はさらに反問した。「大王さまよ。あなたにとつても自分よりもっと愛しいものがありますか」「マツリカーよ。わたしにとつても、自分よりもっと愛しいものは何も無い」

王はおそらく興ざめてがっかりしたのであろう。彼ひとり宮殿から下りて、釈尊のところへおもむいてこの次第を告げた。そのとき釈尊はこのことを知って次の詩句を唱えたという。

「思いによつていかなる方向におもむいても、自分よりさらに愛しいものに達することは無い。そのように他の人々にとつても自分がとても愛しい。それ故に自己を愛する人は他人を傷つけることなかれ」と述べられたという(『原始仏教 その思想と生活』中村元著)

慈悲とは「いつくしみ」「あわれみ」の意味であると普通に理解されている。

「慈」と「悲」とは別の語であった。「慈」とはサンスクリット語のマイトリ

(maitri)またはミトラ(mitra)という語の訳であり、真実の友情、純粹の親愛の念を意味するものである。

これに対して「悲」とはパーリ語及びサンスクリット語のカルナー(Karna)の訳であるが、「やさしさ」「あわれみ」「なさけ」を意味し、相手の悩みを取り除いてあげたいと思う気持ちである。

南方アジアの上座部仏教においては「慈」とは「人々に利益と安楽をもたらそうと望むこと」(与樂)であり、「悲」とは「人々から不利益と苦を除き去らうと欲すること」(抜苦)であると註解している。

慈悲の実践は社会の不正や理不尽な行為に、ほうっておけない憤りと悲しみを我が事のように感じ、どうにかしてあげたい、手を差し伸べずにはおれないと勇気をもって行動することである。

開祖のいう愛とは『してあげる、与えてあげることで喜びを感じる感情。あるいは、反対に自分が苦しんだり困っているときに、素直に他人の行為を受け入れられる、そういう意味で豊かな心を持った人を、私は育てたい』と述べられている。

※参考文献 『慈悲』 中村元 講談社学術文庫

わたしの 工夫

第9回

道院運営へのヒント……
もって道院の活性化、拳士の
育成につなげていこうという
コラムです。

今回の工夫を
教えてくれたのは……



きょうと きぬがさ
京都府・京都衣笠道院
ながのきょうじ
長野享司 道院長

工夫① 「何を伝えるのか」という指導理念を持つ



道院に来る拳士たちに「何を伝えるのか」という“ぶれない柱”、つまり指導の理念を持つことが大切だと思います。今年のスポーツの業界では、いわゆる指導者といわれる人たちのさまざまな問題が取り沙汰されています。私たちはそれを他人事とせず、他山の石として、常にわが身を省みなければなりません。

さて、その指導の理念なのですが、私のこれまでの人生経験や、金剛禅の教えを通じて学んできたことから明確にいえることは、「人は変われるんだ」ということ。しかし、「人生、出世を急がず、若いときはしっかりと下積みを経験する」ということです。

まだ十分な人生経験のない若い時分に出世を急ぐと、やがて天狗^{てんぐ}になったり、利欲の誘いに乗ってしまったりして、あとでつまづくのです。私はそういう人を何人も見てきました。出世を急がず下積みを経験した人間こそが、自分の心を鍛え、また、困っている人の気持ちを汲み取り、本当に強くて優しい人間になれるのだと思います。

工夫② 大人の拳士が少年拳士と相対して修練する

「道院は家族」という文字どおり、当道院には老若男女さまざまな拳士が在籍しています。小・中学生や社会人などの若手拳士に加え(2001年に道院を開設し、そのときに入門してくれた当時小学生だった3人が今も続けてくれています)、64歳のときに入門され現在80歳の最高齢拳士、50~60代のお母さん拳士が3人、全盲の拳士、心臓病の少年などがいます。

道院長としては、画一的な対応ではなく、それぞれの個性に適した指導ができるよう心がけています。積尊のように、相手によって言葉を変えた「対機説法」を、いつも実践できるように努力しています。

また当道院は、老若男女が、「大きな家族」として和気あいの雰囲気の中、修練を楽しんでいます。家族の形態が変化している現在こそ、貴重な時間だと思うのです。

一つ特徴的なのは、子どもたちに大人の拳士が付いて、相対となって修練することです。大人の拳士は、子どもたちにどう伝えたらいいのかと、手こずりながらも指導することの意義を

感じ取ってくれています。

そんな中で、私は全体を見つつ、各拳士の特性に適した「対機説法」として、ピンポイントで指導するように心がけています。



道院長 vol.44

元気の素



神奈川県・海老名市分道院長
道院長 沼内寿浩(48歳)

いつでも戻れる道院

道院の方針は、来ることが楽しくなるような雰囲気づくりです。そのため、当道院では稽古以外のイベントが比較的多いのが特徴であると思います。具体的には、稽古終了後のおやつ会(お菓子&ドリンク)、道場の駐車場で行う正月の餅つき大会、春の花見を兼ねたバーベキュー、県外の施設で行う夏合宿、秋の焼肉パーティー、年末の納会などです。また、これら各種イベントを開催するときには、休眠拳士にも必ず声を



かけているので、彼らも多数参加してくれます。このようなつながりを大切に行っていることで、進学が決まったときや就職が決まったときには報告に来てくれますし、海外勤務の拳士は、一時帰国すると必ず顔を出してくれます。また、自身の環境が整うと現役復帰してくれる拳士もいます。私自身、この部分に大きな喜びを感じており、道院長を続けるモチベーションの一つになっています。休眠拳士がいつでも戻ることができる場所として、道院を存続していくことが大切だと思っています。

稽古では、「すべての動作に意味があること」を理解させています。具体的には、構え、攻撃、足捌き、体捌き、当身などには、必ず理由がある。逆に、理由のない動きは極力しないこと。これを、少年拳士に対しても細かく説明しています。理解したうえで、数をかける稽古をすることで、本当の意味での上達が期待できると考えています。また、道院の役割として、金剛禅の学習も欠かせないと考えていますので、毎回学科の時間を設け、「金剛禅読本」や「少林拳法教範」だけでなく、「僧階教本」も活用しながら、自分の言葉で説明しています。特に「教典」は奥深く、行間を読み込んでいかないと本当の意味を理解できませんので、時間を取って学習する機会を設けています。

仕事や時間は「何とかなる!」

道院長を引き受ける前年、職場の役割が管理職となり、多忙な生活に変化しました。時間的制約で、道院長を引き受けるのは難しいのではと心配しましたが、今思うといらぬ心配でした。

人間、時間がなければならぬに工夫して、時間を生み出すことができるものです。また、頑張っていれば、周りが助けてくれます。つまり、「何とかなる!」ということです。

実際に、今では限られた時間で成果を出す働き方を実践することができていますし、仕事も家庭も犠牲にせず、道院長を続けられています。世の中では働き方改革が進んでいます。日本は先進国の中でも労働生産性が著しく低いといわれ、これを改善して仕事以外の余暇や自己啓発に充てる時間の創出が求められています。以前、ある指導者から、「道院長をやるなら仕事や家庭を犠牲にするのはしかたがない」と聞いたことがありますが、今はそんな時代ではありません。逆に、追い風だと思っています。

専有道場の確保などの課題もありますが、それがクリアできるのであれば、臆することなく道院長を目指してほしいと思います。好きな少林拳法を通じて人を育てることができ、自身も成長していける喜びが待っています。



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

開催報告(派遣講師)

本山

●本山公認教区講習会

- 〔9月9日〕四国地方教区(宗由貴、大澤隆、坂下充)
- 〔10月14日〕神奈川県教区(海鋒雅之、前田保男)
- 〔10月21日〕東海地方教区(宗由貴、新井庸弘、大澤隆、須田剛、坂下充)

●教区研修会

- 〔9月2日〕岐阜県教区
- 〔9月9日〕福井県教区
- 〔9月16日〕香川県教区
- 〔10月7日〕滋賀県教区
- 〔10月14日〕大阪府教区、茨城県教区
- 〔10月20日〕東京都教区

●小教区研修会

- 〔8月4日〕愛媛南予小教区
- 〔9月2日〕東京第十四小教区
- 〔9月8日〕山形庄内小教区
- 〔9月9日〕神奈川横浜第三小教区、神奈川西湘小教区、沖繩小教区
- 〔9月16日〕埼玉第五小教区
- 〔9月23日〕東京第一小教区
- 〔9月28日〕宮城塩釜小教区
- 〔9月29日〕東京第十一小教区
- 〔9月30日〕青森南部小教区、千葉東部小教区、神奈川横浜第三小教区
- 〔10月7日〕福岡筑紫小教区
- 〔10月8日〕兵庫東播第一小教区
- 〔10月13日〕愛知西三河第一小教区
- 〔10月14日〕千葉西部小教区、静岡中部小教区、岡山美作小教区
- 〔10月26日〕宮城塩釜小教区

洛東道院 第52回洛東祭2018 少林寺拳法公開演武

2018(平成30)年7月1日(日)、京都市武道センター旧武徳殿において、「第52回洛東祭2018少林寺拳法公開演武」を開催いたしました。

本会は、拳士の日頃の修行の成果を発表する場として、また金剛禪の布教の場として、道院設立以来、継続して開催しています。今回も会場は満席になり、観客席からは、全力を出した拳士たちに大きな拍手が送られ、盛会のうちに終了しました。

川崎柿生道院

(森川和仁)

傘寿で迎えた40周年

8月5日(日)、川崎柿生道院専有道場にて設立40周年式典を挙行いたしました。

当道院は諏佐一義道院長が40歳で設立、80歳で40周年を迎えた道院です。晴天に恵まれた猛暑日でしたが、宗由貴



少林寺拳法グループ総裁をはじめ、ご縁の深い道院長・後援者・OB・OG拳士にもご臨席いた

だき、共に諏佐道院長の功績を称えられたことは、「諏佐道院長を喜ばせたい」という一心で二年前から企画してきた実行委員として万感の思いでした。

第一部では、親子参座が多いという特徴から親子三組による奉納演武を行い、大人だけでなく少年部からも門信徒代表祝辞を読み、道院が一つの家族のようなアットホームな雰囲気にも和やかさのある法要となりました。

第二部は会場を近隣のホテルに移して懇親会を行い、40年の歩みを映像で振り返り、懐かしい顔ぶれの方々に諏佐道院長との思い出を語っていたなど、終始笑顔と笑い声の絶えない会となりました。大人も子供も一丸となって取り組み、一人ひとりが持ち場で輝きを放った行事でもありました。

40周年を機にホームページも新たに、川崎柿生道院は諏佐道院長を中心に50周年へ歩み出しています。

播磨南道院

(実行委員長・福地武雄)

設立10周年記念式典

8月5日(日)に開催した本式典においての成果は、幹部拳士主導にて行事の準備から当日の進行までスムーズに実施できたことです。

式典では、小教区長、少年部教化育成委員会の中山文夫委員長などお世話になった先生からお祝いの言葉

を頂き、来賓

には播磨町

長、播磨町教

育長の臨席を

賜り、少林寺

拳法が人づく

りを目的に幸

福運動を展開

していること

をご理解いた

だけました。

式典の中で、道院長として、門下

生、保護者の方々、協力者の皆さん

にお礼の言葉を伝えることができました。

何よりうれしかったのは、幹部拳士、門下生、保護者の方々から

感謝の言葉を頂いたことです。道院

で培ったこのつながりを、今後も大切にしていきたいと思ひます。

静岡県教区 第2回 金剛禅易筋行大会

(吉野雅文)

8月26日(日)、昨年に続き二回目の大会を開催した。今回は、昨年以上に多様な発表が見られ、金剛禅の



奥深さと今後の可能性を大きく見出すことができた。また、講演を二つ組み込み、午前中には須田剛教学研究委員会委員長の講義、午後には三浦伸也絵本プロジェクト顧問のユーモアあふれるお話と絵本の読み聞かせをしていただいた。

アトラクションとして金剛禪に関するクイズなどを行い、拳士全員が大いに楽しめる大会となった。大会自体は成功に終わったと感じる反面、大会参加が県内所属の約半数であったことなど、所属長全員が、金剛禪に対して真摯に向き合い、同じ方向を向いていくよう意識改革をしていく必要性を強く感じた次第である。

本山

(浅井昌典)

帰山行事

(7月度)

武蔵五日市道院(道院長・高井勉)

加賀梯道院(道院長・安田嘉昌)

滋賀伊吹道院(道院長・藤岡学)

奈良信貴道院(道院長・川口宗勇)

(8月度)

金沢卯辰山道院(道院長・加藤善成)

能登七尾道院(道院長・織平秀一)

石川河北道院(道院長・鈴木之雄)

金沢東道院(道院長・新合成智)

大阪千船道院(道院長・満田隆三)

徳島学道院(道院長・横田温生)

善通寺中央道院(道院長・渡辺賢)

琴弾道院(道院長・倉本巨康)

大野城大利道院(道院長・西田智宏)

2018年8・9月度 認証

●新設

東京府中西道院	小松原 哲雄	京都上植野道院	森川 弘仁
京都明珠道院	三井 純一		

●交代

長井ひなた村道院	前司 道弘	奈良上牧道院	服部 公英
横浜鶴見道院	浦本 久伸	萩道院	榎代 健一
大阪住吉道院	西村 やよひ	横浜都筑道院	池田 政俊

僧階昇任者

権大導師

■2018年8月1日付

石井 明仁(東京大塚道院)
荒井 恵一(新潟共和道院)
竹村 充(御殿場道院)
坂田 真生子(犬山北道院)

中導師

■2018年7月1日付

稲田 孝弘(東京洗足池道院)
鈴木 道臣(宇部恩田道院)

権中導師

■2018年8月1日付

本間 仁(札幌もいわ道院)
高谷 雅典(つくばみなみ道院)
吉田 晴一(東松山道院)
物井 宏一(千葉清見台道院)
酒井 義雄(練馬道院)
立花 剛(東京石神井道院)
大矢 剛寛(東京成瀬道院)
池野 昇司(東京王子道院)
落合 教康(東京王子道院)
赤羽 智明(東京大塚道院)

須濱 彩恵(御殿場道院)
武衛 篤(静岡城北道院)
脇山 保乃加(刈谷北道院)
國見 めぐみ(四日市富田道院)
加藤 浩城(四日市富田道院)
飯吉 真由己(大阪白鷺道院)
松田 潤(山陽網干道院)
白神 賢一(児島西道院)
富田 素久(徳島渭東道院)
松浦 隆一(高松木太道院)
山下 浩二(武雄道院)
三重野 正己(大分府内道院)

お布施

布施

▷豊田末野原道院 服部 俊美 10,000円

本山帰山記念

▷金沢卯辰山道院 加藤 善成 10,000円
▷能登七尾道院 織平 秀一 10,000円
▷善通寺中央道院 渡辺 實 5,000円

本山見学・練習会

▷武蔵五日市道院 30,000円

▷滋賀伊吹道院 30,000円
▷奈良信貴道院 川口 宗勇 30,000円
▷加賀梯道院・かけはし会 10,000円

公認講習会

▷京都府教区 40,000円
▷福島県教区 30,000円
▷山形県教区 30,000円
▷福岡県教区 30,000円

訃報

志藤 彰人 鳥栖道院 道院長、274期生、大導師正範士七段、2018年9月30日逝去、満68歳

新春法会・稽古始め

主な内容

- 師家年頭挨拶
- 新春法会
- 稽古始め
- 新春の集い
(予定/演武披露、書初めパフォーマンス、
多度津京極少林寺拳法太鼓など)
- もちつき・ぜんざいふるまい・お正月遊び体験
(コマまわし、羽根つきなど)
- 軽食販売 (うどん、ホットスナックなど)

日程：2019年1月13日(日) 9:00～13:40 予定
場所：金剛禅総本山少林寺
対象：道院長、拳士、そのご家族・ご友人

※すべての行事にご参列・ご参加できます。
少年拳士や幅広い年代のご家族にもお楽しみいただけます。
お誘い合わせのうえ、ぜひ、お越しください！

指導者講習会のご案内

金剛禅運動の指導者(道院長)を目指す方はもちろん、
すべての拳士にとって向上の機会となる講習会です！
ぜひ、お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

日程：2018年11月24日(土)～25日(日)
会場：金剛禅総本山少林寺
対象：16歳以上で1級以上の現役拳士
費用：10,800円(税込。2日間の昼食費を含む)
(懇親会の費用は別途2,000円程度。参加自由)
締切：2018年11月19日(月)

《講習内容》
「少林寺拳法がなぜ金剛禅の主流たり得るか」をテーマに
修練、講義、ディスカッション等を通して展開します。

《受講特典》
全日程を受講された方は特典が付与されます。
(遅刻、早退は付与されませんのでご注意ください)
特典の詳細については、基幹事務システムのお知らせ画面
をご覧ください。



宗門の行としての少林寺拳法

修練における素直さ

法形修練で技がうまくいかなかったときに、その原因を相手に求めてしまう。
運用法で当身を入れられたときに、感情に任せてやり返そうとしてしまう。
いずれも「我」への執着が成長の妨げとなっている。
相対での修練は、自己の内にある執着に気づかせ、それを取り除いていく機会となる。
目の前の現象をあるがままに認め、うまくいかなかった原因をありのままに受け止める
素直さが必要である。



差込廻蹴と 上中二連突に対する小手投

金剛禅総本山少林寺公式サイトで
動画をご覧いただけます。

撮影／志村 力 文／冨田雅志 演武者／守者：倉本亘康 准範士六段・攻者：飯野貴嗣 准範士六段